

文化学園大学大学院

生活環境学研究科・国際文化研究科

平成 29 年度 活動報告書

文化学園大学大学院 生活環境学研究科・国際文化研究科

平成 29 年度 活動報告書 目次

**1. 平成 29 年度 生活環境学研究科・国際文化研究科 大学院特別講義 A・生活学特別講義 B（オムニバス授業）**

1) 講義の全体概要	3
2) 各講義の概要	6
3) 授業風景	2 2

**2. 平成 29 年度 大学院セミナー**

1) 研修・宿泊先	2 4
2) 日程及びスケジュール	2 4
3) 参加教職員	2 5
4) 中間発表プログラム	2 5
5) セミナー風景	3 0

**3. 平成 29 年度 文化学園大学大学院 修士論文**

1) 修士論文発表プログラム	3 3
2) 修士論文発表予稿集	3 6

**4. 平成 29 年度 文化祭展示**

1) 展示期間及び会場	1 0 3
2) 展示風景	1 0 3

**5. 平成 29 年度 文化学園大学 大学院 研究科委員会** 1 0 6

1. 平成 29 年度 生活環境学研究科・国際文化研究科 大学院特別講義 A・生活  
学特別講義 B（オムニバス授業）

1) 講義の全体概要

◆授業の概要

本年度のテーマ「近代社会の力（パワー）とひずみ」

大学院は高い教養と専門能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造・発見し、その成果を社会に発信するという研究の入り口として存在している。したがって、そこに所属する大学院生は、当然のことながら、こうした研究者としての作法を身につけなければならない。しかしながら、一方で、それら研究が還元されうる社会の状況を把握し、その変化と自身の研究内容を調和させていく必要も存在する。

本講義では、研究を進めるにあたり必要となる社会への多様な視点について、自身の考えを深めることを目的とする。そこで、本年度のテーマは「近代社会の力（パワー）とひずみ」とし、近代社会の動因の一つであるテクネーやアルス（テクノロジー、エンジニアリング、アート、サイエンス）の功罪について、講師それぞれの視点から講義していただくこととする。近年「AI 元年」と呼ばれ、人工知能や情報技術の発展が著しいが、歴史的にみれば新しい技術は社会に光と影の部分を作り出してきたことが理解されるだろう。この新技術に関わる研究倫理的な視座を含めつつ、本講義では「技術」と「社会」の関わりを多側面から追究する。

本学は幅広い学問領域で学術研究を展開しているという特徴があり、各専門分野で活躍する講師による講義を通して自身の研究や学問領域を相対化して、客観視する力を養いながら、自身の考えを深めていくこととなるだろう。

◆開講年次・単位数

大学院特別講義 A

大学院生活環境学研究科被服学専攻 博士前期課程 1 年（選択・2 単位）

大学院生活環境学研究科生活環境学専攻 修士課程 1 年（選択・2 単位）

大学院国際文化研究科国際文化専攻 修士課程 1 年（選択・2 単位）

生活環境学特別講義 B

大学院生活環境学研究科被服学専攻 博士前期課程 2 年（選択・2 単位）

大学院生活環境学研究科生活環境学専攻 修士課程 2 年（選択・2 単位）

大学院国際文化研究科国際文化専攻 修士課程 2 年（選択・2 単位）

◆到達目標

「近代社会」とはどのような社会で、そこに技術はどのように関わり、人の生活の重要な環境となっているのか、という問題を中心的な問いとして、講義形式で進めた。それらを聴講する中で、学生たち自身が、その問いを自分の研究分野にひきつけることで、自分の研究が社会の進歩にどのように関わるのか、それらは進歩というメリットのみならず、いかなるリスクを発生させる危険があるのか、研究者はそのリスクに対して、事前にどのように関わるべきなのか、といった研究者としての倫理的姿勢を深く自覚することを、第一の目標とした。

その上で、自身の研究を相対化して、様々な研究的立場からの視点を内化し、研究者として一回りも二回りも大きくなることを発展的目標とした。

#### ◆講義シラバス

	開講日	担当講師	演 題
1	2018年 4月11日（水）	濱田 勝宏先生	オムニバス講義の意義と考え方について説明し、大学院で学ぶ学生たちに期待することを提示する。
2	4月25日（水）	田中 里尚先生	ファッション概念に対するWebメディアの影響
3	5月16日（水）	工藤 雅人先生	身体と技術の関わりからファッションを捉えなおす
4	5月30日（水）	小林 未佳先生	“おしゃれ”の評価方法
5	6月6日（水）	岩塚 一恵先生	アートが地域を変える
6	6月20日（水）	曽根 里子先生	集住とコミュニティの現在

7	7月4日（水）	柳田 佳子先生	サステナブルファッションと社会
8	7月18日（水）	田中里尚・井上揺子・小川祐一先生	前期に示された様々なテーマについて振り返りつつ、近代に関する自分の視角を深める。
9	9月26日（水）	田中 隆（外部講師）先生	医療機器の技術とデザイン
10	10月3日（水）	昼間 行雄先生	テクノロジーの発展にともなう映像表現の変化
11	10月24日（水）	小川 祐一先生	インターネット社会と旅行
12	11月28日（水）	三島 万里先生	インターネットの発達と企業広報
13	12月19日（水）	足立 美智子（外部講師）先生	「バリバラ」で実践する身障者ファッション
14	2019年 1月9日（水）	杉田 秀二郎先生	インターネット利用と健康
15	1月30日（水）	田中里尚・井上揺子・小川祐一先生	後期に示された様々なテーマについて振り返りつつ、近代に関する自分の視角をさらに深める。その上で、近代と技術に関する自分の考えを練り上げる。

## 2) 各講義の概要

第1回 オムニバス講義の意義と考え方 大学院生に期待すること

◆日時 2018年4月11日(水)

◆担当講師 濱田 勝宏

### ◆講師プロフィール

早稲田大学大学院修士課程修了。ファッションビジネス学会(会長代理)。2018年7月、文化学園大学学長。2019年4月から、文化学園理事長。都市的生活構造の観点から、現代人の服装についてアプローチしている。特に、生活関係、生活文化のカテゴリーで研究を進めている。現代人の生活関係については、人間関係・社会関係の基本要因とその変化を根底において捉える。また、生活文化については、文化人類学の「文化」概念のいくつかをもとに、現代ファッションに潜む社会模範と流行などとの関係を考察している。著書に『現代社会学への招待』(共著 酒井書店 2000)他。論文に「服装社会学と社会学(2)」『文化女子大学紀要 服装学・造形学研究』(2009)、「服装社会学と社会学」『文化女子大学紀要 服装学・造形学研究』(2007)、「ミクロ社会学への転換ーアメリカ社会学の展開ー」『文化女子大学紀要 服装学・造形学研究』(2004)など。



### ◆授業の概要

第1回目の授業では、この大学院におけるオムニバス授業の意味が語られた。まず、本学の大学院生として期待することは、服装、住居、建築、アート、現代文化といった生活を取りまくすべての事柄を通じて、研究を深め、それらを生活の中に再度成果として投げ返すことである。そして、次に自身が長らく追求してきた「服装社会学」の成立について、大学院設立の経緯と事情を述べ、その後、自身の研究経験と苦闘の軌跡について概観した。そこには既存の学問から離脱して、新たな学問ジャンルを開拓せざるを得なかった際に生じた様々な問題と解決があり、それらの試行錯誤は、院生たちが、現代が直面する問題を解く際にも参考になるはずである。特に、試行錯誤において得られた知見は、「服装学」および「ファッション」がもつ「広域性」である。ファッションは、何かの様式が変化する際の時間性に関わり、歴史へとつながる。また、服装学においては行為を通じた自己呈示や外見の問題は、あらゆる「文化」に応用できる射程を持つ。こうした越境的な「広域性」こそ、このオムニバス授業の中で一見様々な課題をバラバラに理解することで会得することのできる内容ではなかろうか。

## 第2回 ファッション概念に対する Web メディアの影響

◆日時 2018年4月25日(水)

◆担当講師 田中 里尚

### ◆講師プロフィール

博士(比較文明学)。早稲田大学文学研究科修士課程を修了後、暮らしの手帖社などで編集の仕事に携わりながら、立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻にて、博士(比較文明学)号を取得。2007年度に本学助教、2011年度より現職。日本近現代における女性雑誌(主に「主婦の友」研究)の変遷とその中で表現された服装美の価値観(「おしゃれ」)の社会史的研究、服装に現れる社会規範とメディアの近代史、戦後日本ファッションとポップカルチャーの関係性についての研究など。単著として『リクルートスーツの社会史』(青土社、2019)共著として、『現代文化への社会学』(北樹出版、2018)、『ファッションで社会学する』(有斐閣 2017)、『<北>の想像力』(寿郎社 2014)。共訳書として『循環するファッション』(文化出版局、2013)。



### ◆授業の概要

第2回目の授業は、このオムニバス講義のコーディネーターの一人でもある田中里尚が行った。ここでは、「服装学」の根幹の一つである「ファッション」という概念が、Webメディアの登場によって徐々に揺らいできてはいないか、という問いかけをなすことを中心にして講義した。第一に、ファッション・トレンドの変化はWebメディアの進展によって、年二回というリズムから、徐々に不規則なリズムとなっていることを指摘。特に、新作の登場を管理していたコレクション・システム外で、様々なインフルエンサーがWebを介して横断的に消費者と繋がってしまうことで、情報がリゾーム化して、思わぬところから流行が生じたりしている。また、こうした不規則な流行の生成やトレンドの変化を、加速したテンポを提示しているのがファストファッションであることを詳述した。第二に、Webメディアは身体を通じた自己表現を、リアルとヴァーチャルの二つに分断した。今までは、現実世界で服の他者の提示を通じてリスペクトや模倣といった行為を生み出し、着用者にも承認欲求の調達が行われていた。ところが、そうした機能はヴァーチャルに移管され、現実においては、むしろそうした競争を隠すことへと自己表現のモードが変化していることを指摘した。双方とも、テクノロジーがファッションのもたらした影響として功罪を判定するまでにはいたらないが、従来のビジネスモデルを揺るがしているということで、ビジネス面に対しての影響は大きいだろう。

### 第3回 身体と技術の関わりからファッションを捉えなおす

◆日時 2018年5月16日(水)

◆担当講師 工藤 雅人先生

#### ◆講師プロフィール

早稲田大学教育学部社会科社会科学専修卒業、東京大学大学院学際情報学府博士課程満期退学。武蔵大学社会学部、大妻女子大学文学部、早稲田大学文学学術院非常勤講師を経て、2016年度より現職。研究内容としては

「ファッション・雑誌」の歴史的成立に関するメディア史的研究、服を着るという行為に関する社会学的研究、日本の若手デザイナーの服づくりに関する批評的研究。

「ファストファッション——ファッションの「自由」がもたらす功罪」(2017年、藤田結子・成実弘至・辻泉編『ファッションで社会学する』、有斐閣、203-22)、「「差別化という悪夢」から目ざめることはできるか?」(2017

年、北田暁大・解体研編『社会にとって趣味とは何か——文化社会学の方法規準』、河出書房新社、205-29)、「洋服から身体を引き剥がす——ANREALAGEの示す『かたち』」(2011年、西谷真理子編『ファッションは語りはじめた——現代日本のファッション批評』、フィルムアート社、90-107)など。



#### ◆授業の概要

今まで、ファッションの物差しとされてきた「身体」という概念に対して、様々な角度から検討した。1997年に発表されたコムデギャルソンのショーを補助線にして、身体と衣服との境界線の曖昧さについて問いかけた。次に、そこから衣服＝身体という考え方を徹底させることを通じて、身体／衣服を切断するに至ったANREALAGEの試みを紹介し、「規範を相対化する試みを「異形」を補助線とすることなく成功させる方法の探究」として意味づけることとなった。こうした事例の紹介と解釈を通じて、身体という洋服における「定規」性を問い直し、「定規を変えない限り新しい洋服は生まれない」という考え方を提唱した。その上で、テクノロジーによって可能になる身体の形を探求する。それは必ずしも、今までの身体の形ではないが、定規としての身体を相対化したうえで、テクノロジーにおける新たな身体を眺めると、どのように見えるかを述べた。それらの概念の拡張を「Cyberthlon」などの事例をもとに追求した。



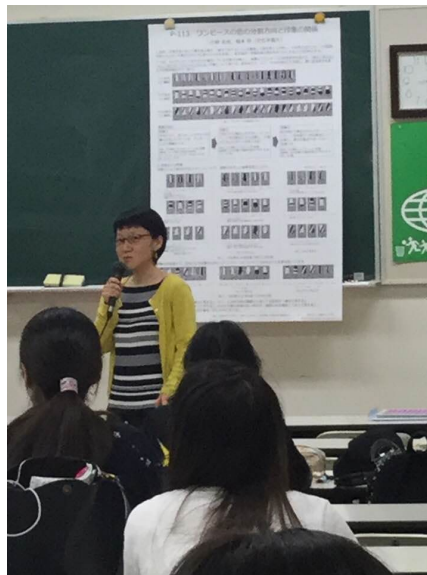
#### 第4回 “おしゃれ”の評価方法

◆日時 2018年5月30日（水）

◆担当講師 小林 未佳先生

#### ◆講師プロフィール

博士（被服環境学）。2006年文化女子大学大学院（現:文化学園大学大学院）生活環境学研究科被服環境学専攻博士後期課程単位取得満期退学、2006年神奈川県産業技術センター勤務（非常勤）、2008年学位取得博士（被服環境学）、2008年文化女子大学（現:文化学園大学）副手（非常勤）、2009年服装学部専任助教を経て、2015年服装学部専任准教授。材料学実験、テキスタイル性能実験、テキスタイル企画論及び実習、テキスタイル企画演習、ファッションプレゼンテーション企画製作、卒業研究、ファッションテキスタイル特論実験、ファッションテキスタイル特論演習等の授業を担当。



#### ◆授業の概要

小林未佳先生には、テキスタイル研究室から、感性の科学的な測定というテクノロジーについて、講義していただいた。まず、自身の修士論文テーマである「ビスコースレーヨン紡績糸とフィラメント糸のテキスタイルとしての効用の比較」から、問題発見と解決に関して述べられた。次に博士論文のテーマである「透けるテキスタイルが重なった場合の色の視覚印象評価に関する研究」についてお話され、そこから方法として感性という数値にしきれないものをいかに測定するか、という問題に取り組まれ、いかに自分なりの解答を得たかということをお話しされた。こうした2つの研究を出発点として、SD法を用いた官能検査によって「おしゃれ」という感性の測定を行いながら、現在取り組まれている問題についてご講義いただいた。

## 第5回 かたちのないデザイン、またはアート界限

◆日時：2018年6月6日

◆担当講師：岩塚 一恵

### ◆講師プロフィール

本学造形学部建築・インテリア学科助教。2005年に筑波大学芸術専門学群建築デザイン専攻を卒業、2008年に筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術学専攻博士過程を退学し、2011年から文化学園大学造形学部建築・インテリア学科にて教育研究活動を行っている。専門はInstallation、Stage Art、Performance Projects、Dance Projects、Workshopm、Space Design。各種プロジェクトを中心に活動している。これまでの活動としては、2017年紀の国トレイナート、2016年農村舞台アートプロジェクト（豊田市文化芸術振興財団）、2015年次代を担う子どものための文化芸術体験事業（文化庁）、横浜市文化芸術教育プログラム（横浜市）、2014年世田谷区文化芸術振興事業（世田谷区）などがある。



### ◆講義の概要

キーワードとして Design、Art、まち、建築、をあげた。そもそも「気配」に興味があり、わたしたちの身のまわりに漂っている（みにまとっている）「気配」をデザインしたいと考えた。よって音環境におけるサウンドスケープの研究・制作から研究活動が始まり、その後、音の図示可、聴覚環境へと興味は移った。そしてダンスを専門としている人との出会いをきっかけに、日常空間を舞台と捉えるアートプロジェクトの世界へと踏み込んだ。お客さんとアートが出会い、どんどん変わっていくことに面白さを覚えた。現在では、「そこに居る人たち」と自分たちの街＝舞台で何ができるか、何を発信できるかを考えており地域資源の発掘、保存、活性化を目指し国内外のプロジェクトを企画実行している。それは、現代の技術革新による混沌や逆に沿おうとする心情の落ち着きどころを求める創造的な活動であると言える。

## 第6回 集住とコミュニティ

◆日時：2018年6月20日

◆担当講師：曾根 里子先生

### ◆講師プロフィール

本学造形学部建築・インテリア学科准教授。文化女子大学（現・文化学園大学）家政学部生活造形学科住環境デザインコース卒業、文化女子大学大学院家政学研究科生活環境学専攻修了後、本学助手、助教を経て、現在に至る。一級建築士、生活環境学修士。専門は、建築計画・住居計画・住居学、特に集合住宅における住まい方やその時間的変化、共用空間を活用したコミュニティ形成に関する研究。著書に「現代集合住宅のり・デザイン 事例で読む〔ひと・時間・空間〕の計画」（分担執筆：日本建築学会編・彰国社）。主な研究論文として「『コミュニティ形成支援のしかけ』をもつ大規模マンションにおける集住活動成熟過程に関する時系列的調査研究」、「建替団地における『戻り居住者』の住まい方・居住性評価に関する時間的変化の考察－公的賃貸住宅の建替計画に向けた調査研究」などがある。



### ◆講義の概要

「集住とコミュニティ」について、「あつまる」「つながる」「かさなる」「わけあう」をキーワードに、現代社会における特徴や動向を語る。「集住＝人が集まって住む」には、「ひと」「空間」「建物」「まち」といった規模や場面の異なるまとまりがあり、人はこれらの生み出すコミュニティに複層的に関わっている。日本では、特に3.11東日本大震災後、都市を中心に希薄化が指摘されていたコミュニティの役割が再認識されるようになった。家族を超えたコミュニティが重視される住まいの形態としては、集まって家をつくる「コーポラティブハウス」、協働して暮らす「コレクティブハウス」、共用空間をわけあう「シェアハウス」「ソーシャルアパートメント」、自宅の一部を開放する「住み開き」など、より不特定多数の出会いやつながりを生む近年の特徴的な場として、簡易宿泊施設の「ゲストハウス」、仕事の空間を共有する「コワーキングスペース」、災害時の仮設住宅等に併設されたコミュニティ拠点などがある。調査した「大規模マンション」の取り組み事例では、活動の場となる共用空間（ハード）とその運用プログラム（ソフト）の計画が円滑なコミュニティ形成に重要であることがわかった。今後の社会において、「地縁・血縁・仕事縁」「ローカルとグローバル」「リアルとヴァーチャル」など、より選択的・重層的なコミュニティのあり方を捉えていく必要を示唆する。

## 第7回 サステナブルファッションと社会

◆日時 2018年7月4日

◆担当講師 柳田 佳子先生

### ◆講師プロフィール

文化女子大学（現：文化学園大学）家政学部卒業、文化女子大学大学院（現：文化学園大学大学院）家政学研究科被服学専攻修了。本学助手、専任講師、准教授を経て2017年4月より教授。デザインから感性情報までの衣服設計因子の多角的な分析から、アパレル設計システムの開発を行う為の研究。現在はラグジュアリーブランド商品の特徴分析と、グローバル市場における製品開発や設計等に関する研究に取り組んでいる。また、高齢者用アパレル製品の開発に関わる研究を展開。「ファッションスタイルに対するファッションイメージ用語の適合性に関する一考察」『日本感性工学会』Vol.13, No.1, p137-144（2014）など。



### ◆授業の概要

柳田先生は、現在社会的にも注目されているサステナブルファッションについて、ファッション造形学の観点から、どのように考えればいいのかということをご講義された。まず、サステナビリティの定義を解説され、次に、その歴史をひもとき、MDGs から現在しばしばかたられる SDGs への変化と深化についてお話された。その上で、ファッション業界が直面する現状を俯瞰しつつ、ファッションを創る側としてサステナビリティに配慮することとはどういうことなのか、どんな事例があるのか、という問題について、ユニクロと ZARA の事例を用いつつお話じされた。そして、CSR 活動に関する日本企業の取り組みの状況に対して、批評的に概観しつつ、その可能性についてお話された。最後に、ファッション造形学の観点から、サステナビリティを可能にするファッションについての提言として、数多くの取り組みを紹介しながら、「透明性の確保」「認証評価の重要性」を取り上げつつ、従来議論の対象になっていた皮革等の素材に関する意見を述べた。こうした分析から、様々な関係者が Win-Win になるようなサステナブルファッションのシステム構築へのシフトチェンジの重要性を述べられた。

## 第8回 前期テーマの振り返りとディスカッション

◆日時 2018年7月18日

◆担当講師 井上 揺子先生、小川 祐一先生、田中 里尚先生

### ◆授業の概要

学生たちは、少人数のグループに分かれて、前期のテーマをまず個人で思い出しながらノートを取り、自分の関心と結びつけながら、それらをまとめた。その上で、各人がそれらのノートを元に、自分の関心と各先生が語られた技術と社会の関係性の議論を結び付け、10分程度の報告を、各グループで行った。そして、それぞれの発表を集約しつつ、それらの報告の中で共通する問題を各グループで抜き出し、それらをグループごとにディスカッションした。最終的には、それらのディスカッションの内容をグループごとにまとめ、それぞれのグループの代表が、全体に向けて報告した。このようにして、自分の意見に対する他者の評価や意見を相互で確認しあうことで、学生たちは多くの知見を把握することができた。

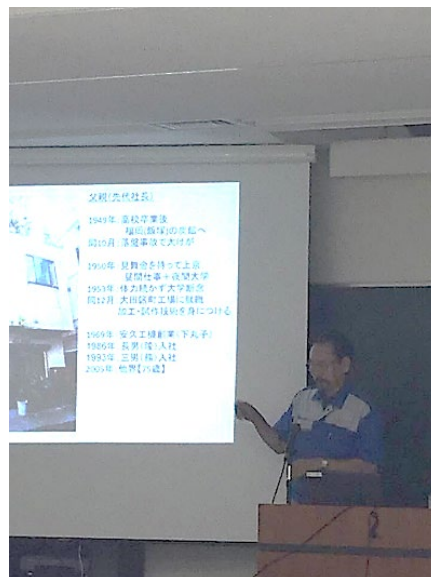
## 第9回 医療 福祉機器の技術とデザイン

◆日時 2018年9月26日

◆担当講師 田中 隆先生

### ◆講師プロフィール

有限会社 安久工機 代表取締役社長。安久工機は父、文夫氏が1969年に設立した会社で各種専用機、試験装置、医療機器などの設計・試作品開発を行っている。1982年 東京農工大学大学院研究科機械工学修了後、大阪国立循環器病センター人工臓器部、梅津先生の元で人工心臓とそのシミュレーター（模擬循環回路）、駆動装置、人工弁、人工肺といった機器の研究に携わり、1986年に安久工機入社。2005年から早稲田大学理工学部研究科生命理工学専攻（社会人博士課程）にて研究を続け、2006年 安久工機代表取締役社長に就任。2011年 博士（工学）取得。2009年 大田の工匠に表彰され、経済産業省には世界トップレベルのベンチャー企業7社に選定されている。2015年下町ロケット（池井戸潤作の大田区町工場が舞台となる小説）の続編連載、ドラマ放映の折に朝日新聞（東京版）下町ロケット大田に技ありとして紹介される。現在、大田区町工場の技術を結集し世界をリードする 製品をつくり続けている。



### ◆講義の概要

2017年、長男を社員として迎えた安久工機の町工場らしいメンバー、スペースで人のためになる技術開発に情熱を注ぐ日常や、ものづくりが敬遠される昨今において工場見学を一般公開する大田工場のネットワークを紹介。アジアロボコン決勝大会のトロフィー、事故現場や工事現場などの囲いとなる折り畳み式のパタコーン、展示用の折り畳み式屋台、スプリンクラーに使用される散水素子、水の膜を作るウォーターベールなどユーモラスな開発も行っている。原点となる人工心臓開発においては人体にストレスのない製品、製造時間の短縮を図り、早大型量産向け人工心臓に到達するまでの考察と試作の経過、また香川県の盲学校美術教諭、栗田先生の閃きから始まる視覚障害者用の筆記器具の開発では、筆を引用する仕組からペンを引用へ柔軟に切り替え、ワークショップを繰り返し使う人、当事者と対峙しながら、厚生労働省から助成金を得て製品化へ向けて蜜蝋粘土を絵を描くインクとしてスムーズにペン先から流出させる機構を探る試行錯誤の経緯を語る。技術開発と製作—総合してデザインによって広がる人との繋がりを考察せよと問いかける。



## 第10回 変わらない「映画」のかたち

～映像技術の進歩は映画の表現を変えたのか？～

◆日時：2018年10月3日

◆担当講師：昼間 行雄

### ◆講師プロフィール

東京造形大学造形学部デザイン学科映像専攻卒業。約30年間に渡りフィルム、ビデオ等での映像作品制作を手掛ける。また1985年から映像の教育普及活動を始め、厚生労働省が建設した「国立総合児童センターこどもの城」の映像科学事業部で、主任指導員、課長として、児童健全育成事業に従事する。幼児～高校生までの児童を対象とした、リクリエーション活動、研修事業、講座等を実施し、インストラクターとして指導に当たる。また日本各地の児童館や地域センターで、その職員、大学生ボランティアを対象とした健全育成に関する研修会や講座を



開催し、数々のワークショップや映像講座を実践。2000年からディレクター、構成作家としてテレビ番組やDVDソフトの制作に携わる。企画構成・演出したテレビ番組に「週刊マニアタック～アルタミラの遺伝子」(BS-TBS、ザイオン／2000～2001／ディレクター)、「空想共和国ニッポン」(BS-TBS、TBS ビジョン／2007／企画構成)、映画『葬送特急』(GTL／2011／監督)、映画『逢魔が時に乙姫は囁く』(GTL／2017／監督)等がある。著書に『映画は楽しい表現ツール』(偕成社／単著)、「ユーロアニメーション」(フィルムアート社／共著)、「アニメ・クリエイターになるには」(ペリかん社／共著)、『こども映画教室のすすめ』(春秋社／共著)などがある。厚生労働省社会保障審議会専門委員。日本映像学会会員。日本アニメーション学会会員。

### ◆講義の概要

1894年、エジソン(米)のキネトスコープの発明により映画が誕生し、1年後にリュミエール兄弟の(仏)シネマトグラフの発明でスクリーンに上映する形式が確立する。1900年代には、止め写し技法、スタジオ撮影とロケーションの組み合わせが確立し、1910年代にはドラマ、アニメなどほとんどのジャンルが始まる。アメリカ映画の父グリフィスがクローズアップ、アクションつなぎ、クロスカッティングなどの劇映画の表現を確立したと言われ、1920年代までに映画監督、プロデューサー、映画スターが誕生する。同時期、トーキー時代となり、音声表現による大変革が起きた。1930年代は、モノクロからカラーへ、1950年代にワイドスクリーン化が始まり技術の性能は向上していく。1940年代、ハリウッド映画は最盛期を迎えるが1950年代には観客数が減少し、1960年代のアンチ・ヒ

ローの新形体へと変遷する。その間ヨーロッパ映画も記憶に残る作品を輩出しているが、1970年代以降もアメリカは進化を遂げ、コッポラ、ルーカス、スピルバーグらが活躍する。現代はモーションコントロール・カメラによる撮影、CGの導入、デジタル・シネマの実用化といったIT化が進んでいる。映画の技術と表現が互いの発展を支え続けた歴史、未来の動向に何を学ぶかを問う。



## 第 11 回 インターネット社会と旅行

◆日時：2018 年 10 月 24 日

◆担当講師：小川 祐一

### ◆講師プロフィール

本学現代文化学部国際文化・観光学科准教授。1985 年に同志社大学法学部政治学科を卒業、同年日本航空株式会社に入社。2010 年に同社を早期退職。2013 年立教大学大学院ビジネスデザイン研究科博士課程前期修了。2013 年から文化学園大学にて教育研究活動を行っている。

専門は、ホスピタリティ産業を中心に従業員満足度と顧客満足度の関係やホスピタリティを重視したマネジメントのあり方など、いわゆる「ホスピタリティ経営」に関する研究であるが、前職を活かした航空業、旅行業の研究も行っている。近著に「エアライン・ビジネス入門（共著）」（晃洋書房 2017）がある。



### ◆講義の概要

IT の発達により、旅行にまつわる多くのものの「あり方」が変わろうとしている。まず、商品の販売方法が変わった。インターネットの発達により、電話を含む「対面式の販売」が「Web を通じた販売」に変化した。これにより、航空会社やホテルの直販化が進んだだけでなく、価格比較サイトが生まれ、消費者は自己責任のもとに最安値を探し出すことが容易になった。インターネットの発達は販売方法だけではなく、旅行の計画方法も変えた。旅行のプランニングをプロに任せるのではなく、素人が Web 上のブロガーの記事等を参考に自分で作る文化が生まれた。その結果、既存の旅行会社の路面店の整理が進んだだけでなく、収益を上げる仕組みも変えていかななくてはならなくなった。さらには、VR（バーチャルリアリティ）の出現により、旅行そのものが劇的に変わるかもしれない。今までの概念にはない「現地に直接行かない旅行」が生まれ始めている。講義では、最近実験が行われた VR 旅行を紹介しつつ、「VR 旅行はアリか？ ナシか？」について意見交換した。

## 第12回 インターネットの発達と企業広告

◆日時：2018年11月28日

◆担当講師：三島 万里

### ◆講師プロフィール

本学現代文化学部・国際文化・観光学科教授。津田塾大学国際関係学科卒業後、(財)国民経済研究協会研究助手。1991年本学助教授、1999年教授。2003年新たな研究領域として、従来の経済学に「コミュニケーション学」を追加。本学の本務を勤めつつ東京経済大学大学院コミュニケーション学研究科で学び、2006年学位取得。現在、神奈川県環境影響評価審査会会長・専門部会委員。近著に『企業広報誌の世界—広報誌から企業コミュニケーションを読み解く』（日外アソシエーツ、2018）。



### ◆講義の概要

企業コミュニケーションとは、企業が社会に対し情報を受発信する活動すべてを指し、そのコミュニケーション・ツールとしては広告、広報（パブリック・リレーションズ）、対面販売活動などがある。そのうちの広報活動の中で、パブリシティと並んで重要な役割を果たしてきたのが企業広報誌である。なぜならば、本来企業とはその業種の種類や規模の大小にかかわらず「社会的責任、説明責任、倫理観と透明性」の3点が求められるものであり、企業姿勢を広く社会に発信する自社メディアである企業広報誌は、その点で重要かつ有効な役割を果たす。しかし長引く不況、IT技術を駆使したマーケティング技術の進化とそのことによる広告と広報の関係の曖昧化、紙媒体と文字文化そのものの縮小化傾向などを背景に、企業広報誌の休廃刊が相次いでいる。広報誌の効果測定が難しいという点も大きなマイナス要因となっている。講義では長く出版されている広報誌（実物）を紹介し、それらの企業が何を発信しようとしているのかについて意見交換した。

### 第13回 「バリバラ」で実践する身障者ファッション

◆日時：2019年12月19日

◆担当講師：足立 美智子

#### ◆講師プロフィール

文化女子大学短期大学部卒。その後、文化服装学院に入学し、アパレルデザイン科卒業。2007年より文化服装学院に勤務。2010年より文化・服装形態機能研究所に所属。下着メーカーやスポーツウエアなどのアパレル企業との共同開発を行ってきた。また、学内における身体計測の累積データを通じて、人体の形態・機能の今日的変化について研究を重ねている。主な論文に、(共著)「高齢者・障がい者の衣服製作のための体型研究」文化服装学院研究集 8. (2013-03-30) pp.87-91 や (高見沢ふみと共著)「障がい者の衣服製作のための体型研究」文化服装学院研究集 11 (2019-03) pp.63-66 がある。



#### ◆講義の概要

現代社会においては、従来以上に様々な身体の形が想定されている。ダイバーシティを目指す社会であれば、従来は「障がい者」としてカテゴライズされてきた身体についても、ファッションの可能性を追求すべきである。そのための実践のありかたについて、講義を行っていく。最初に、平均的な身体形態および機能の経年変化の例を示し、それとは異なる身体を持つ人々にアンケート調査を実施し、そのファッション意識や要望の形を具体化した。その上で、2011年から2014年にかけて行われた国立障害者リハビリテーションセンターとの共同での取り組みを紹介しつつ、その身体機能に即したアイテムの形態、そして、それらを用いたファッションコレクションの例を解説した。そして、その知見をもとにしてNHK Eテレの人気番組である「バリバラ」において、2015年から2017年に開催され、参加した障がい者ファッションの未来形を模索した実践（バリコレ）と、その際に用いられた装置について説明した。

## 第 14 回 インターネット利用と健康

◆日時：2019 年 1 月 9 日

◆担当講師：杉田 秀二郎

### ◆講師プロフィール

本学現代文化学部・応用健康心理学科教授。早稲田大学大学院人間科学研究科健康科学専攻修士課程修了、日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了。労働省産業医学総合研究所、東京都老人総合研究所を経て現職。認定専門健康心理士。小平市教育委員会平成 28 年度教育功労者。



### ◆講義の概要

インターネットの発達により、新たな対人関係が形成されてきている。その一方で、「インターネット依存」という新しい問題も生まれてきた。講義では、依存度テストを実施し、受講者に自覚を持たせ、依存が生み出す影響や、依存が生まれる背景に触れていく。昨今、悪い面が強調されることが多いインターネットではあるが、良い点も挙げることで、ヘルスプロモーションの視点から「今後どのようにインターネットと付き合っていくべきか」を投げかけた。なお受講者の多くが講義中に手元のスマートフォンを見ていたことは、使用者の依存的傾向を如実に示すものであった。

## 第 15 回 後期テーマの振り返りと全体ディスカッション

◆日時 2019 年 1 月 30 日

◆担当講師 井上 揺子、小川 祐一、田中 里尚

### ◆授業の概要

学生たちは、少人数のグループに分かれて、後期のテーマをまず個人で思い出しながらノートを取り、自分の関心と結びつけながら、それらをまとめた。その上で、各人がそれらのノートを元に、自分の関心と各先生が語られた技術と社会の関係性の議論を結び付け、10 分程度の報告を、各グループで行った。そして、それぞれの発表を集約しつつ、それらの報告の中で共通する問題を各グループで抜き出し、それらをグループごとにディスカッションした。最終的には、それらのディスカッションの内容をグループごとにまとめ、それぞれのグループの代表が、全体に向けて報告した。

後期は、これに加えて、技術の進化と社会の発展におけるジレンマの事例を出し合い、技術の暴走や支配、ないしは、技術進化による慣習や価値の変容に関するメリットとデメリット、そしてそれらをどのように解決すべきか、という問題について、各自が自身の研究の中で深められるような考察を行って終了した。このようにして、自分の意見に対する他者の評価や意見を相互で確認しあうことで、学生たちは多くの知見を把握することができた。



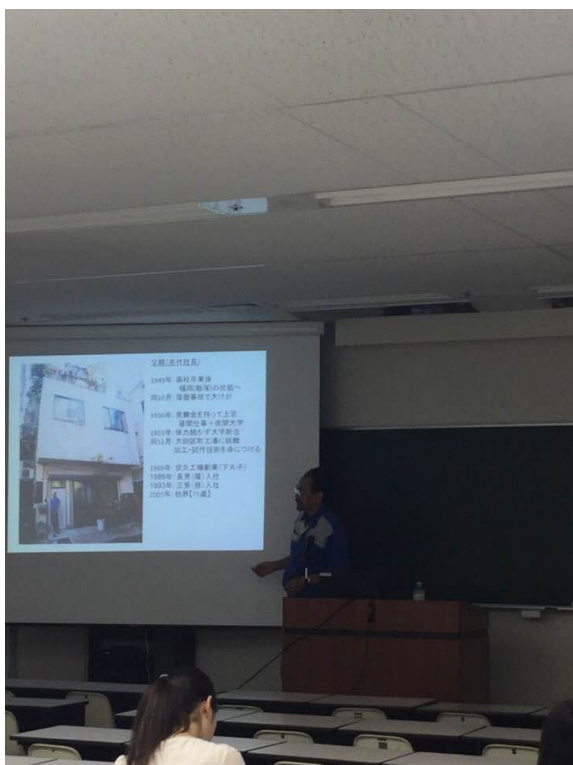
### 3) 授業風景



第1回目の講義風景



第8回 振り返り授業の風景



機材をつかった昼間先生の授業

外部講師の田中隆先生による熱のこもった授業



第 15 回目 最終講話と振り返り

## 2. 平成 29 年度 大学院セミナー

### 1) 研修・宿泊先

文化北竜館 〒389-2322 長野県飯山市大字瑞穂 7332-2

### 2) 日程及びスケジュール

6 月 29 日 (木)

9 : 3 0 大学出発  
1 4 : 3 0 到 着  
1 5 : 0 0 ~ セミナー開講  
1 5 : 3 0 ~ グループ別ミーティング  
1 8 : 0 0 ~ タ 食 【食 堂】  
1 9 : 0 0 ~ 教員ミーティング

6 月 30 日 (金)

7 : 3 0 ~ 朝 食  
9 : 0 0 ~ 修了年次生中間発表  
1 2 : 0 0 ~ 昼 食  
1 3 : 0 0 ~ 修了年次生中間発表  
1 8 : 0 0 ~ タ 食

7 月 1 日 (土)

7 : 3 0 ~ 朝 食  
9 : 0 0 ~ グループ別ミーティング  
1 2 : 0 0 ~ 昼 食  
1 3 : 3 0 ~ 閉講式  
1 4 : 0 0 ~ 北竜館出発  
1 8 : 4 5 頃 新宿駅西口  
1 9 : 0 0 頃 大学到着



### 3) 参加教職員

#### ◆教員（22名）

濱田 勝宏	教授	堀尾 眞紀子	教授
米山 雄二	教授	星野 茂樹	教授
永井 伸夫	教授	押山 元子	教授
申 恩泳	教授	井上 揺子	教授
高村 是州	教授	横山 稔	教授
砂長谷 由香	教授	浅沼 由紀	教授
佐藤 真理子	教授	渡邊 秀俊	教授
須山 憲之	教授	高橋 正樹	教授
田中 里尚	准教授	久木 章江	教授
柚本 玲	准教授	佐藤 浩信	准教授
小川 祐一	准教授	安永 明智	准教授

#### ◆事務局（3名）

清木 孝悦	事務局長
藤澤 千晶	教務部教務課
大橋 芙美	教務部教務課

### 4) 中間発表プログラム

☆次ページより掲載。

修了年次生 博士論文・修士論文・制作題目一覧 ①						
	氏名(Name)	発表時間 (Time)	題目(Title)	主指導教員 (Chief Advisor)	副指導教員 (Assistant Advisor)	専攻名 (Major)
1	ウオン ツイー テラン リッキー WONG TSZ TUNG RICKYY	9:20 ～9:30	日本のダンディー 侍の身体の着るアート	高木 陽子		被服学
2	カチバック ダイアナ KATIGBAK DIANA ジーン ウルスア JEAN URSUA	9:30 ～9:40	クラフト消費のリ・デザイン 新消費者層に向けた伝統テキスタイル工芸媒体を革新すること	高木 陽子	サミュエル トーマス	被服学
3	ビンガー ヴィクトリア BINGER VIKTORIA ヘレナ グドルン -HELENA GUDRUN	9:40 ～9:50	日本におけるジェンダー表現 過去から現在までの日本のメディアにおけるジェンダー表象	高木 陽子		被服学
4	マーシュ スコット ジェームズ MARSH SCOTT JAMES	9:50 ～10:00	ファッション・フォトグラフィー及び存在しない身体 ヘルムート・ニュートンと石内都の作品におけるエロティシズムのケーススタ ディー	高木 陽子	スレード トビー アレクサンダー	被服学
5	マルゴー ギベルト Margaux Gibert	10:00 ～10:10	女性のエンパワメントに見る着るアイテムの役割: 現日本における外国人女性のコスプレ活動について	高木 陽子		被服学
6	ティン ジュリアン ノイ Tinh Julien Noy	10:10 ～10:20	バーチャル・クラフトマンシップ MMRPGビデオ・ゲームにおけるクラフト実践表現、実演、ファッション創造への応 用	高木 陽子		被服学
休 憩 (10分)						
7	ビンズ ケリース オリヴィア BINNS KERICE OLIVIA	10:30 ～10:40	日本におけるサステナブルファッションのコンシューマービヘービア	須山 憲之		被服学
8	モリシゲ タカネ MORISHIGE TAKANE マリアナ ヒロコ MARIANA HIROKO	10:40 ～10:50	仮想キャラクターの競争優位性を探る	須山 憲之		被服学
9	ヤマギシ リエコ 山岸 理恵子	10:50 ～11:10	体臭成分の繊維への吸着挙動に及ぼす界面活性剤の影響に関する研究	米山 雄二		被服環境学
10	アライ リサ 荒井 理沙	11:10 ～11:20	洗浄における移染現象とそのメカニズム	米山 雄二	柚本 玲	被服学
11	クワシー ブレンダコバヤン クワシー ブレンダ小林	11:20 ～11:30	ウールニット地における毛玉の発生と脱落の挙動口	柚本 玲	米山 雄二	被服学
12	タン ショウテン 譚 小典	11:30 ～11:40	女子学生の制服の歴史的変化に関するビジュアル本の制作口	松本 章		生活環境学
13	シュウ イヘイ ZHU YIPING	11:40 ～11:50	一人暮らしの女性に小さな幸せをもたらす小物たち	星野 茂樹		生活環境学
昼 食 (60分)						
14	オリタ ナオコ 織田 奈緒子	13:00 ～13:10	「ミャンマー、パオ族の民族衣装に関する一考察」	濱田 勝宏	申 恩泳	被服学
15	カイ アナン KUI YANAN	13:10 ～13:20	サブカルチャーの視点から見る中国の「漢服」文化	濱田 勝宏	申 恩泳	被服学
16	シャ タンレイ XIA DANLEI	13:20 ～13:30	現代中国の「茶人服」に関する考察	濱田 勝宏	申 恩泳	被服学
17	イチノセ ジュリ 一ノ瀬 珠里	13:30 ～13:40	安土桃山時代から近現代における陣羽織の変遷口	田中 里尚		被服学
18	タナベ マキ 田辺 万季	13:40 ～13:50	「特殊飲食店」の構造と文化史～秋葉原を中心に～	田中 里尚		被服学
19	ハン イチテキ FAN YIDI	13:50 ～14:00	ソーシャルメディアにおけるストリートブランドの宣伝戦略研究	田中 里尚		被服学
20	ブン キン WEN JIN	14:00 ～14:10	ファッション雑誌における“青文字系”の形成とその変容:雑誌『mer』の分析を通じて	田中 里尚		被服学
21	シモムラ ユキコ 下村 友紀子	14:10 ～14:20	衣服の着用が心理に及ぼす影響	野口 京子		国際文化
休 憩 (10分)						

	氏名(Name)	発表時間 (Time)	題目(Title)	主指導教員 (Chief Advisor)	副指導教員 (Assistant Advisor)	専攻名 (Major)
22	オウ セイ 汪 清	14:30 ～14:50	暑熱環境下での足部冷水浴が身体に与える生理学的効果	永井 伸夫		被服環境学
23	カイドウ ユキノ 海藤 薫乃	14:50 ～15:00	寺山修司のクリエイションをモチーフとしたファッションイラストレーションの研究□	高村 是州		被服学
24	チョウ ギョウヨウ ZHANG XIAOYE	15:00 ～15:10	緑と建築が共有する革新的住空間を創造する。□	井上 遙子		生活環境学
25	カワムラ モモカ 河村 百香	15:10 ～15:20	執務空間における立位作業を促す視覚的效果に関する研究 — 環境デザインと健康に関する研究 —	高橋 正樹		生活環境学
26	チン ケントウ CHEN YEN TUNG	15:20 ～15:30	子どもの身体活動を促す外遊び場に関する研究	高橋 正樹		生活環境学
27	コ テイテイ HU TINGTING	15:30 ～15:40	ムスリム衣装の生体負担と温熱的快適性	佐藤 真理子		被服学
28	フクラ ミサト 福良 好恵	15:40 ～15:50	和服着装時の歩行特性	佐藤 真理子		被服学
29	ヨウ シテツ YANG SHIZHE	15:50 ～16:00	戦国時代から唐代における漢民族の衣服形態の変遷と機能性検討	佐藤 真理子		被服学
休 憩 (10分)						
30	アマリ ハルミ 甘利 晴海	16:10 ～16:20	暑熱環境下における野外スポーツ衣料の衣服内環境について	小柴 朋子		被服学
31	アライ ノノエ 荒井 野恵	16:20 ～16:30	ファン付き作業服の冷却効果及びファン取り付け位置による効果の違い	小柴 朋子		被服学
32	カトウ サオリ 加藤 沙織	16:30 ～16:40	加圧による下腿形状変化の個人差と姿勢による変動□	小柴 朋子		被服学
33	クボタ セツコ 窪田 摂子	16:40 ～16:50	ブラジャーによる乳房の整容効果□乳房の形状・特性の個人差から考える—□	小柴 朋子		被服学
34	キトウ ロカ 鬼頭 ろか	16:50 ～17:00	「手」をモチーフにしたオーナメント制作—癒しを与える作品の探求—	押山 元子		生活環境学
35	トウ エイ DONG RUI	17:00 ～17:10	オリエンタルな「ニュー・ルック」 :東アジアにおけるトップモデルの誌上表現の特性分析をめぐって	上間 常正		国際文化
36	カ イリン HE WEILUN	17:10 ～17:20	翫手の芸術家のための文化芸術拠点を提案—台東区旧下谷小学校の活用して	浅沼 由紀		生活環境学
37	リュウ イ LIU YI	17:20 ～17:30	LGBT高齢者に配慮した住まいの構成要素に関する研究 米国、日本、中国の事例を対象として	浅沼 由紀		生活環境学
				発表時間 発表+質疑応答 博士前期・修士 5分 + 5分 博士後期 10分 + 10分		

Doctoral and Master's Thesis Titles ①	
Name	Title
WONG TSZ TUNG RICKYY	The Japanese Dandy The Wearing Art of the Samurai Male Body
KATIGBAK DIANA JEAN URSUA	Craft Consuming Re-designed. Innovating Traditional Textile Craft Mediums to Attract a New Consumer Base
BINGER VIKTORIA -HELENA GUDRUN	Doing Gender in Japan : Representing Transgender in Japanese Media from past until today
MARSH SCOTT JAMES	Fashion Photography and the Absent Body A Case Study of Eroticism in the Work of Helmut Newton and Ishiuchi Miyako
Margaux Gibert	The Roles of Wearable Items in Empowerment Foreign Women's Cosplay Practices in Contemporary Japan
Tinh Julien Noy	Virtual Craftsmanship: Crafting Practices in Massively Multiplayer Role-Playing Video Games Representation, Enactment and Benefits to Fashion Creation.
Break (10min)	
BINNS KERICE OLIVIA	Consumer Behavior of sustainable fashion in Japan.
MORISHIGE TAKANE MARIANA HIROKO	Exploring the competitive advantage of Virtual Characters.
RIEKO YAMAGISHI	Study on the Effect of Surfactants on Adsorption Behavior of Body Odor on Fabrics
RISA ARAI	Dye Transfer Phenomenon and Mechanism in Washing
BRENDA KOBAYASHI QUARSHIE	Pilling behavior from forming to falling on wool knitted fabric□
XIAODIAN TAN	A book about the changes of girl's school uniform Applying with the photos, hand drawing presentation and textual description □
ZHU YIPING	Small things that bring small happiness to living alone
Lunch (60min)	
NAOKO ORITA	「A Study on the National Costume of Paoh Tribe in Myanmar」
KUI YANAN	Chinese “Han Clothes” Culture from the Viewpoint of Subculture
XIA DANLEI	A study on 「 Tea Clothing 」 of modern China□
JURI ICHINOSE	Transformation of “Jinbaori” from the Azuchi Momoyama Period to the Modern Age
MAKI TANABE	Structure and Cultural History of “Akihabara centering on”
FAN YIDI	Street Brands’ Advertising Strategy on Social Media
WEN JIN	The formation and transformation of “aomojikei” in magazines:An analysis of “mer” magazines□
YUKIKO SHIMOMURA	Fashion affects emotion
Break (10min)	

### Doctoral and Master's Thesis Titles ②

Name	Title
WANG QING	Effects of Cold Water Footbath on Thermoregulation and Autonomic Nervous System, in the Heat Environment.
YUKINO KAIDO	Study of fashion illustration based on Shuji Terayama's creation□
ZHANG XIAOYE	Create the innovative living space that combine the nature with residence.
MOMOKA KAWAMURA	Physical Factors and Visual Effects to Promote Working at a Standing Desk – Environmental Design and Health –
CHEN YEN TUNG	Encourage Physical Activity in Children's Outdoor Playground
HU TINGTING	Physiological Strain and Thermal Comfort of Traditional Garments Worn by Muslim Women.
MISATO FUKURA	Gait Characteristics of Wearer in Various Clothes: Focusing on Japanese clothes and Western clothes.
YANG SHIZHE	The Transition of Garment Styles and Functionality of Ethnic Chinese Clothing Between the Warring States Period and Tang Dynasty□
Break (10min)	
HARUMI AMARI	The microclimate within clothing of outdoor sports-wear in hot environment
NONOE ARAI	Cooling effect of air-conditioning working wear with fan and effect depending on fan mounting position
SAORI KATO	Individual differences of changes in the shapes of lower leg: By clothing pressure, and the height of the heel from the ground.
SETSUKO KUBOTA	The bust figure conditioning effect by brassieres.□ Individual differences of bust shape, size, and softness —□
ROKA KITO	The Ornamental Production of a Hand Motif: Exploring Works with Healing Power□
DONG RUI	Oriental “New Look” : The Characteristic Analysis of the Expression of East Asian Top Models in High Fashion Magazines
HE WEI LUN	Cultural arts base design for young artists—reuse by TAITO-KU old SHITAYA Elementary School
LIU YI	Research on Constituent Elements of Housing Considering LGBT Elderly, for Cases in the US, Japan and China

Presentation time / Q & A time  
Masters 5min + 5min  
Doctoral 10min + 10min

専攻名	Major
被服環境学	Doctoral Program in Environmental Clothing Studies
被服学	Master's Program in Clothing Science Studies
生活環境学	Master's Program in Living Environment Studies
国際文化	Master's Program in Humanities and Intercultural Studies

## 5) セミナー風景



北竜館入口から北竜湖を背に記念撮影



自然をバックにセミナーにも熱が入る





真剣な発表会の風景 1



質問も活発になされた



米山研究科長の講話にみな聴き入る



発表は緊張するけれども、やり遂げたあとの気分は爽快



### 3. 平成 29 年度 文化学園大学大学院 修士論文

#### 1) 修士論文発表プログラム

☆次ページから掲載。

平成30年度 文化学園大学大学院 生活環境学研究科・国際文化研究科 修士論文発表会 プログラム

2019年 2月 25日 (月) 9:30-16:35, 2月26日 (火) 9:30-11:55 於: C071 教室

司会: 高木 陽子 佐藤 浩信 柚本 玲

1日目 2月25日 (月) 9:30-16:35

発表時間: 1人 15分 (発表 10分, 質疑 5分)

9:30-9:40 開会の挨拶 文化学園大学 学長 濱田 勝宏 教授

【被服学専攻】 9:40-11:10

	氏 名	テーマ	専 修	指導教員
9:40-9:55	オリタ ナオコ 織田 奈緒子	ミャンマーの民族衣装に関する一考察 ～パオ族を中心に	服装社会学	濱田 勝宏 教授
9:55-10:10	カイ アナン KUI YANAN	サブカルチャーの視点から見る中国の「漢服」文化	服装社会学	濱田 勝宏 教授
10:10-10:25	シャ タンレイ XIA DANLEI	現代中国の「茶人服」に関する考察 A Study on 「Tea Clothing」 of Modern China	服装社会学	濱田 勝宏 教授
10:25-10:40	タナベ マキ 田辺 万季	「特殊飲食店」の構造と文化史～秋葉原を中心に～	ファッション 文化	田中 里尚 准教授
10:40-10:55	ハンイチテキ FAN YIDI	ソーシャルメディアにおけるストリートブランドの 宣伝戦略研究	ファッション 文化	田中 里尚 准教授
10:55-11:10	ブン キン WEN JIN	雑誌における青文字系とその変容: 雑誌『mer』の分析を 通じて	ファッション 文化	田中 里尚 准教授

11:10-11:25 休憩

【国際文化専攻】 11:25-12:10

	氏 名	テーマ	専 修	指導教員
11:25-11:40	シモムラ ユキコ 下村 友紀子	衣服の着用が心理に及ぼす影響～若者の衣服の色の選択から～ Fashion affects emotion～From the view point of the color preference of youth～	健康心理学	野口 京子 教授
11:40-11:55	トウ エイ DONG RUI	オリエンタルな「ニュー・ルック」—東アジアにおけるトップモ デルの誌上表現の特性分析をめぐって— Oriental “New Look”: A Characteristic Analysis of the Expression of East Asian Top Models in High Fashion Magazines	国際 ファッション 文化	上間 常正 特任教授
11:55-12:10	イ スル 李 スル	戦後における日韓の「歴史認識」 —国際関係の視点から—	国際文化	中沢 志保 教授

12:10-13:00 昼休み

【被服学専攻】 13:00-14:00

	氏 名	テーマ	専 修	指導教員
13:00-13:15	カチバック ダイアナ KATIGBAK DIANA JEAN URSUA ジーンウルスラ	Craft Consuming Re-designed Innovating Traditional Textile Craft Mediums to Attract a New Consumer Base	Global Fashion	高木 陽子 教授
13:15-13:30	マーシュスコット ジェームズ MARSH SCOTT JAMES	Fashion Photography and the Absent Body A Case Study of Eroticism in the Work of Helmut Newton and Ishiuchi Miyako	Global Fashion	中西 教夫 教授
13:30-13:45	ビンズ ケリースオリヴィア BINNS KERICE OLIVIA	Human-Centric Consumption: A Case Study of Sustainable Fashion Consumer Behavior in Japan	Global Fashion	須山 憲之 教授
13:45-14:00	モリシゲ タカネ MORISHIGE TAKANE MARIANA HIROKO マリアナ ヒロコ	Exploring Competitive Advantages of Virtual Characters Case Study: Hatsune Miku	Global Fashion	須山 憲之 教授

14:00-14:10 休憩

【被服学専攻】 14:10-15:10

	氏 名	テーマ	専 修	指導教員
14:10-14:25	アマリハルミ 甘利 晴海	暑熱環境下における野外スポーツ衣料の衣服内環境について The microclimate within clothing of outdoor sports-wear in hot environment	服装機能学	小柴 朋子 特任教授
14:25-14:40	アライノノエ 荒井 野恵	ファン付き作業服の冷却効果及びファン取り付け位置によ る効果の違い	服装機能学	小柴 朋子 特任教授
14:40-14:55	カトウサオリ 加藤 沙織	加圧による下腿形状変化の個人差と姿勢による変動	服装機能学	小柴 朋子 特任教授
14:55-15:10	クボタハツコ 窪田 摂子	ブラジャーによる乳房の整容効果 —乳房の形状・特性の個人差から考える—	服装機能学	小柴 朋子 特任教授

15:10-15:20 休憩

1日目 2月25日(月)

発表時間:1人 15分(発表 10分, 質疑 5分)

【被服学専攻】 15:20-16:35

	氏 名	テーマ	専 修	指導教員
15:20-15:35	フクラミサト 福良 好恵	和服着装時の歩行特性	服装機能学	佐藤 真理子 教授
15:35-15:50	ヨウ シテツ YANG SHIZHE	戦国時代から唐代における漢民族の衣服形態の変遷と機能性検討	服装機能学	佐藤 真理子 教授
15:50-16:05	コ テイテイ HU TINGTING	ムスリム衣装の生体負担と温熱的快適性	服装機能学	佐藤 真理子 教授
16:05-16:20	クワシー ブレンダ <small>コバヤシ</small> 小林	ウールニット地における毛玉の発生と脱落の挙動	テキスタイル デザイン学	柚本 玲 准教授
16:20-16:35	アライ リサ 荒井 理沙	洗浄における移染現象とそのメカニズム	テキスタイル デザイン学	米山 雄二 教授

2日目 2月26日(火) 9:30-11:55

【生活環境学専攻】 9:30-10:45

	氏 名	テーマ	専 修	指導教員
9:30-9:45	チョウギョウヨウ 張 曉曄	緑と共存する革新的な住空間を創造する Create the innovative living space that combine the nature with residence.	建築・ インテリア学	井上 搖子 教授
9:45-10:00	カ イリン HE WEILUN	若手造形芸術家を育成するためのアート交流拠点の提案— 台東区旧下谷小学校を活用して—	建築・ インテリア学	浅沼 由紀 教授
10:00-10:15	リュウイ LIU YI	LGBT高齢者に住みやすい居住環境の構成要素に関する研究	建築・ インテリア学	浅沼 由紀 教授
10:15-10:30	チン ケン トウ CHEN YEN TUNG	子どもの身体活動を促す外遊び場に関する研究	建築・ インテリア学	高橋 正樹 教授
10:30-10:45	カワムラモモカ 河村 百香	執務空間における立位作業を促す視覚的效果に関する研究 —環境デザインと健康に関する研究—	建築・ インテリア学	高橋 正樹 教授

10:45-11:00 休憩

【生活環境学専攻】 11:00-11:45

	氏 名	テーマ	専 修	指導教員
11:00-11:15	シュウイヘイ ZHU YIPING	一人暮らしの女性に小さな幸せをもたらす小物たち	生活造形学	星野 茂樹 教授
11:15-11:30	タン ショウテン 譚 小典	女子学生の制服の歴史的変化に関するビジュアル本の制作	生活造形学	松本 章 特任教授
11:30-11:45	キトウ ロカ 鬼頭 ろか	“癒し”を与える金属作品の提案 —手をモチーフにした作品— The Ornamental Production of a Hand Motif: Exploring Works with Healing Power	生活造形学	押山 元子 教授

11:45-11:55 閉会の挨拶 大学院 生活環境学研究科 研究科長 米山 雄二 教授

【被服学専攻】

	氏 名	テーマ	専 修	指導教員
*	ゴウ リョウ GAO LIANG	Fashionable Research on Canvs Bag Pattern Design	Global Fashion	須山 憲之 教授
*	タン カヒ SHAN KEFEI	Research on Experiential Marketing of Garment Collection Store Based on Customer Perceived Value	Global Fashion	須山 憲之 教授
*	チン ユシン CHEN YUXIN	Research on Tasting and Extracting of Fashion Design Elements Based on the Eye Tracking Technology —Taking Destructive Design of Jeans as an Example	Global Fashion	小柴 朋子 特任教授

\* ダブルディグリープログラムにつき、発表を省略

2) 修士論文発表予稿集

☆修士論文発表予稿集（37 頁～102 頁）の部分は非公開です。

#### 4. 平成 29 年度 文化祭展示

##### 1) 展示期間及び会場

展示期間 平成 29 年 11 月 2 日（金）～11 月 4 日（日）

展示会場 新都心キャンパス A 館 18 階 A181 教室

##### 2) 展示風景



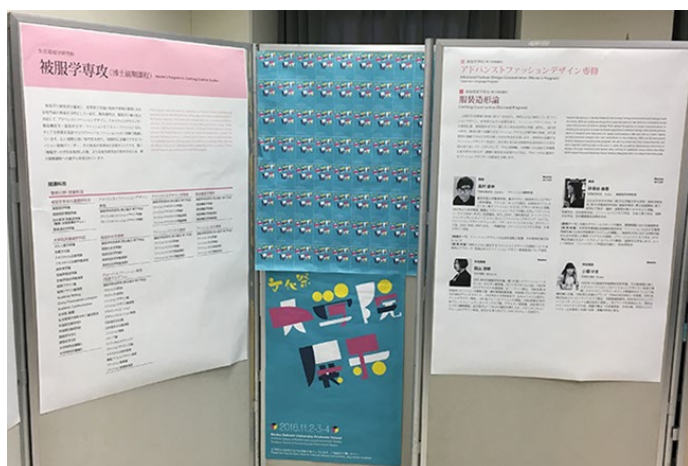
ユニークなポスター



整然とした展示風景



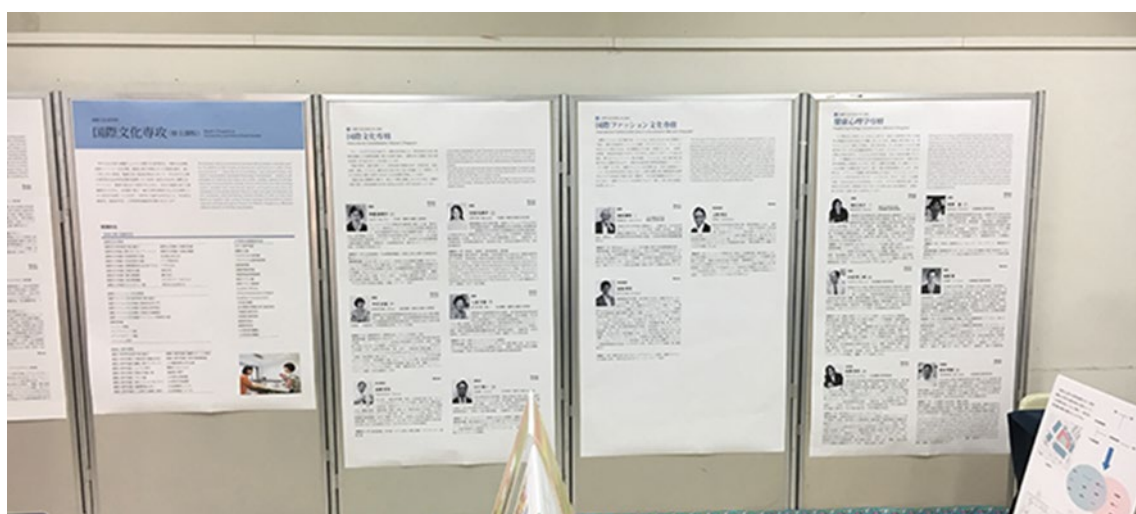
受付には和の風味



被服学専攻の展示

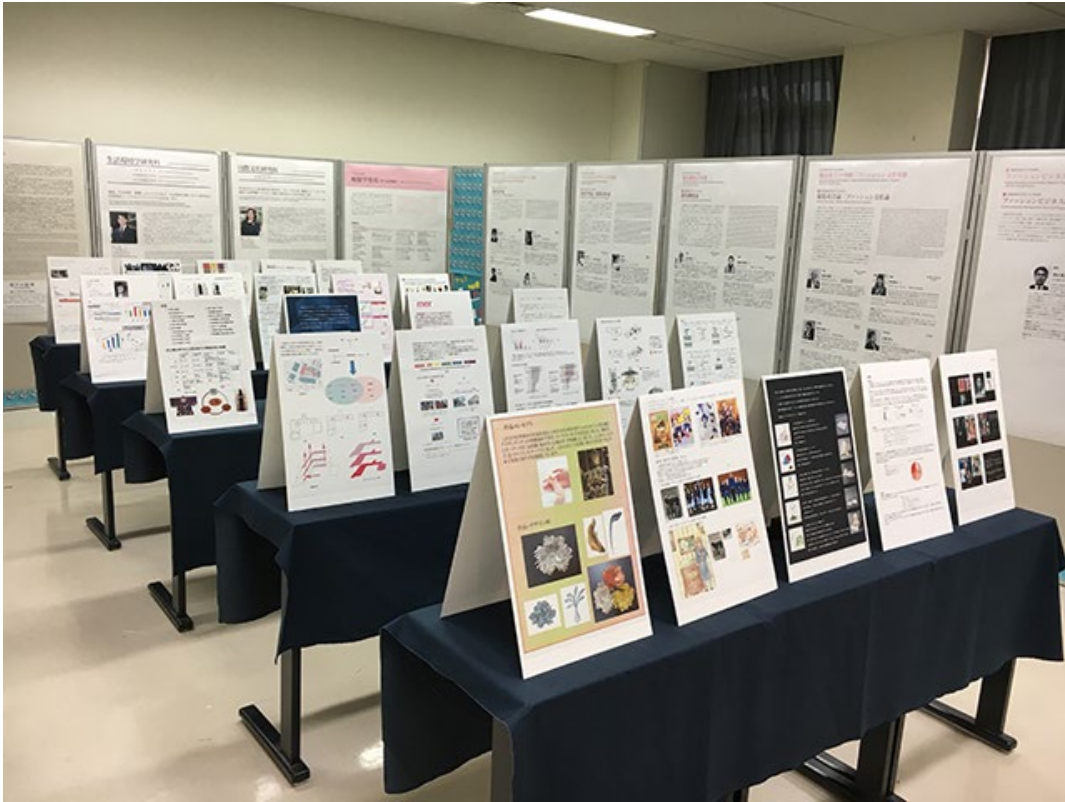


生活環境学専攻の展示

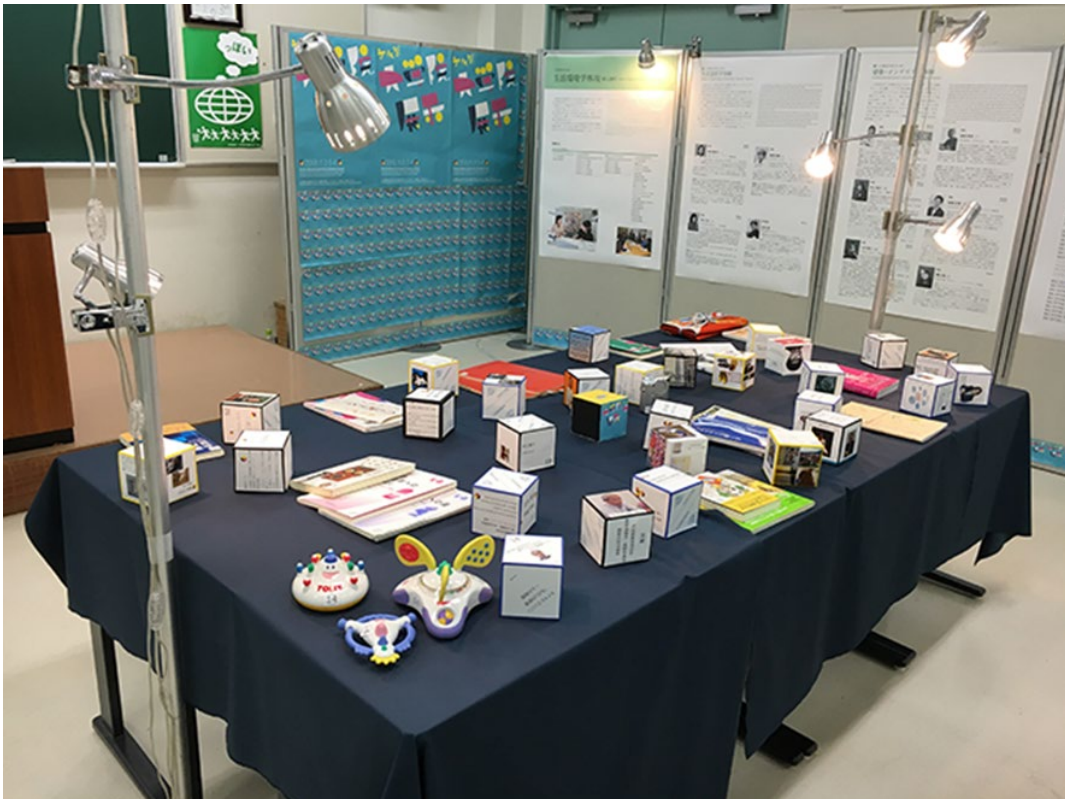


国際文化専攻の展示





ポップアップ型の研究展示



教員紹介のブース

## 5. 平成 29 年度 文化学園大学 大学院 研究科委員会

### 生活環境学研究科

研究科長 米山雄二 教授  
 濱田勝宏 教授  
 申 恩泳 教授  
 照井 義則 教授  
 永井 伸夫 教授  
 高木 陽子 教授  
 横山 稔 教授  
 高村 是州 教授  
 砂長谷由香 教授  
 佐藤真理子 教授  
 須山 憲之 教授  
 田中 里尚 准教授  
 柚本 玲 准教授

### 国際文化研究科

研究科長 野口 京子 教授  
 石田 名都子 教授  
 齊藤真理子 教授  
 中沢 志保 教授  
 三島 万里 教授  
 青柳 宏 教授  
 杉田秀二郎 教授  
 佐藤 浩信 准教授  
 安永 明智 准教授  
 小川 祐一 准教授

### 事務局

清木 孝悦 事務局長  
 円谷 葉子 教務部長  
 高野 博子 教務課長  
 藤澤 千晶 (～8/31)  
 加藤 庸介 (9/1～)

(敬称略 順不同)

令和 2 年 2 月

編集担当 田中 里尚  
 井上 揺子  
 小川 祐一